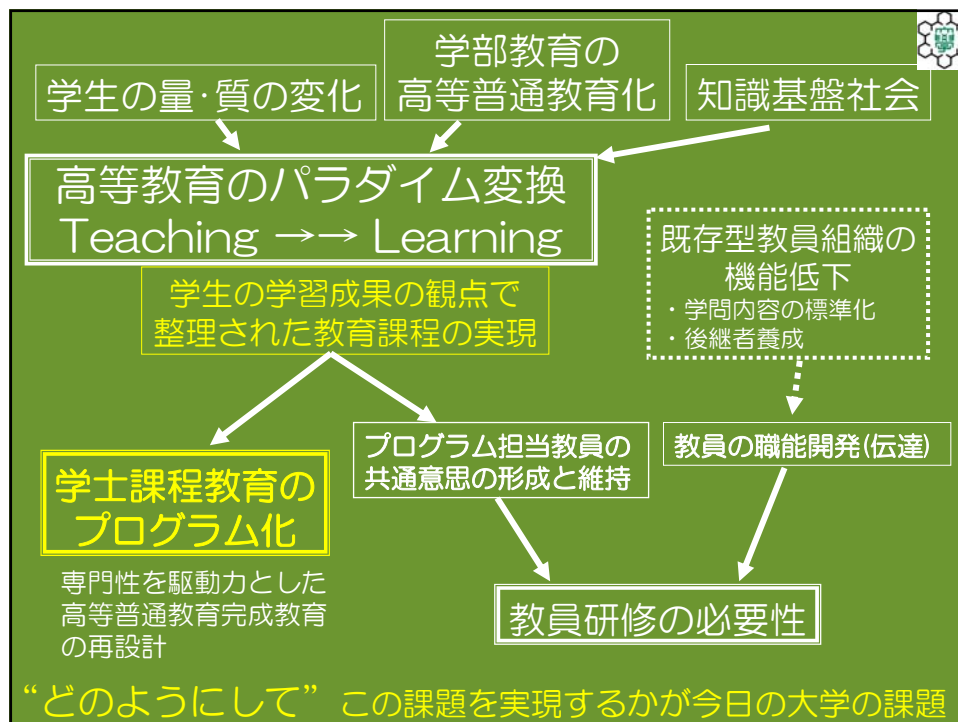




学習成果の可視化を通じた 学士課程教育の質保証への試み —新潟大学型質保証へ—

新潟大学 副学長（学務担当）
濱口 哲



学生の学習成果の質保証を どのようにして実現するか？



① 視点 ・ プログラムの根拠の流動化
(質の基準が定まらない)
学問分野→人材像

・ プログラム履修学生の多様化(プログラム間、内)
多様なキャリアパスを目指す学生

人材像(資質・能力)に確固たる外的基準があり得るか？



① プログラム設計上の人材育成目標の具体化
② 個々の学生の目標と達成度の可視化
による質保証の確立を目指す。(新潟大学型質保証)

新潟大学学士課程教育構築への 具体的取り組みの概要



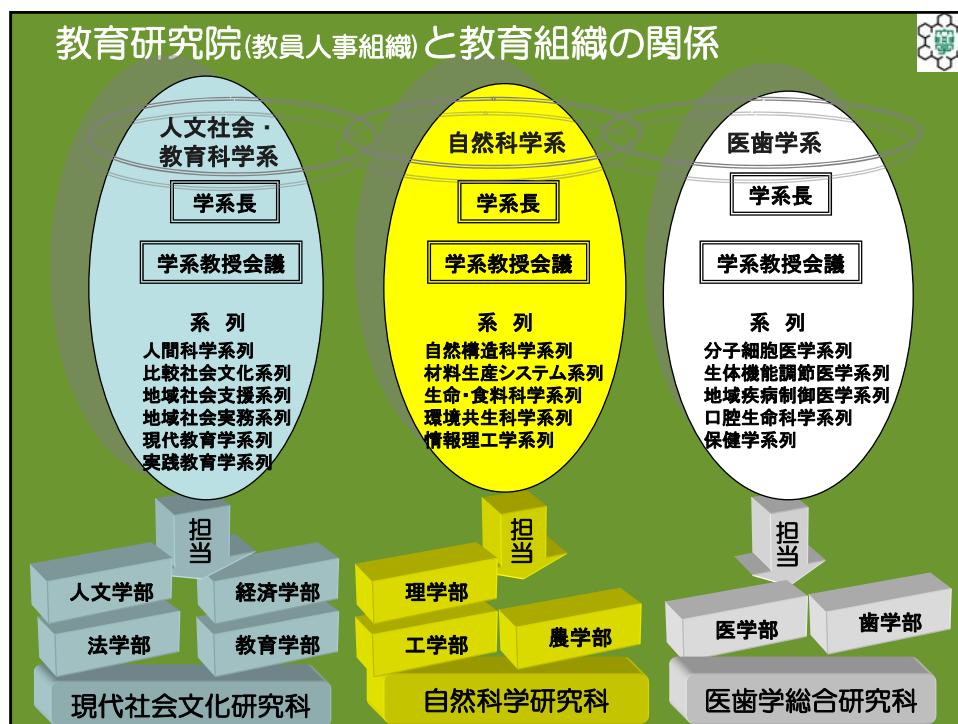
教育資源の全学共通プラットフォームの構築

- 教員所属組織の変更 (平成14年)
- 授業科目の全学化
科目区分の撤廃と分野・水準表示法の導入
→→ 授業開設体制の変更と
全学教育機構の設置 (平成16～17年)

教育プログラムの整備

- 副専攻制度 (平成16年)
- 主専攻プログラム化 (平成19～21年)

➡ 学習成果の実質化へ (平成22年～26年)



授業科目を全学共通の教育資源化

“全学科目化”

全授業科目を原則として全学学生が履修可能に
→ 教養科目と専門科目の科目区分の撤廃

- ・プログラムの二元性の克服
- ・教養か専門かは、科目の属性ではなく、プログラムの中での位置づけの問題

分野・水準表示

授業科目に分野と水準を示すコードを付す

“学問分野”の観点で 授業内容の正当性を担保

教育プログラムの整備

—教育資源（教員・授業科目）の全学共通プラットフォーム上に—



・主専攻プログラム

卒業に必須のプログラム

学部で開設（学位の種類と関連）

→→ 42プログラム

・副専攻プログラム

学生の希望に応じて、

主専門分野とは別の分野について

“ある程度” **体系的なカリキュラム**を履修

→→ 21プログラム

学部・学科の教育課程の主専攻プログラム化

(プログラムの拠り所を「学科：学問分野」から「人材育成目標」へ)



＜教育プログラムの整備＞

- ・ 設置目的を明示し、明確な**人材育成目標**(学習成果)を掲げる。
 - 学習成果は、**専門・教養を含めた到達目標**
- ・ 学生が到達目標に至るための**学習方略**を明示する。
- ・ プログラムは必要十分な授業科目から構成
- ・ **各授業科目と到達目標との関係**を明示

＜プログラム担当教員集団の機能の明確化＞

- ・ 担当教員集団がプログラムにおける教育活動について**共通意志**を持つ。そのための具体的方策(**FD活動等**)を備える。
- ・ 主専攻プログラムの**成果を検証**し、プログラム改革を進める**“しくみ”**を備える。

「プログラムシラバス」の作成作業を通じて、
学士課程教育の抜本的改革を図る

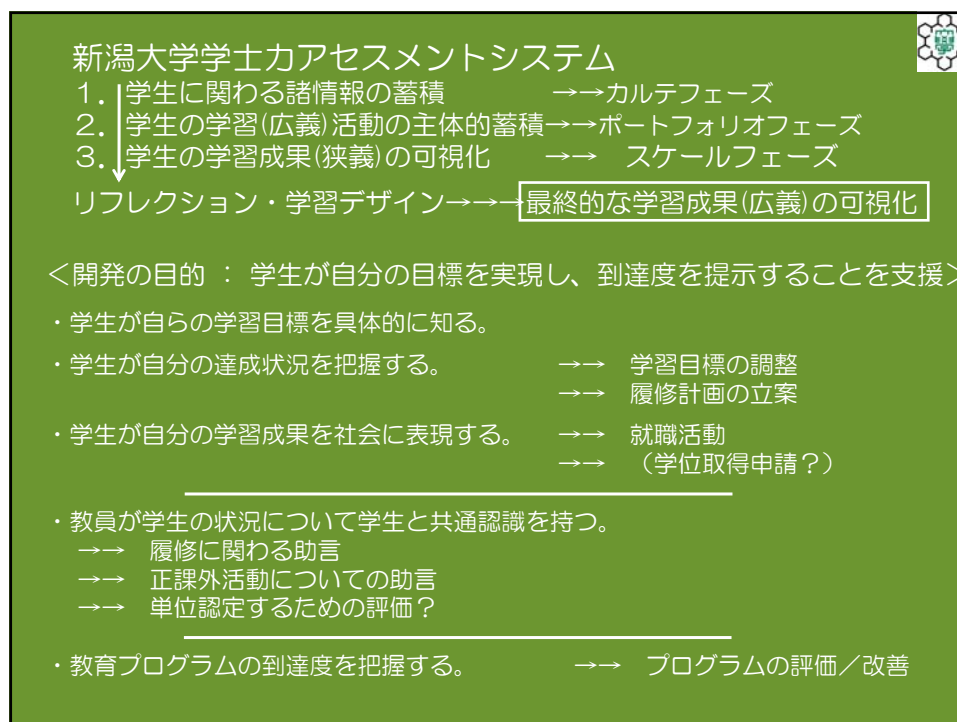
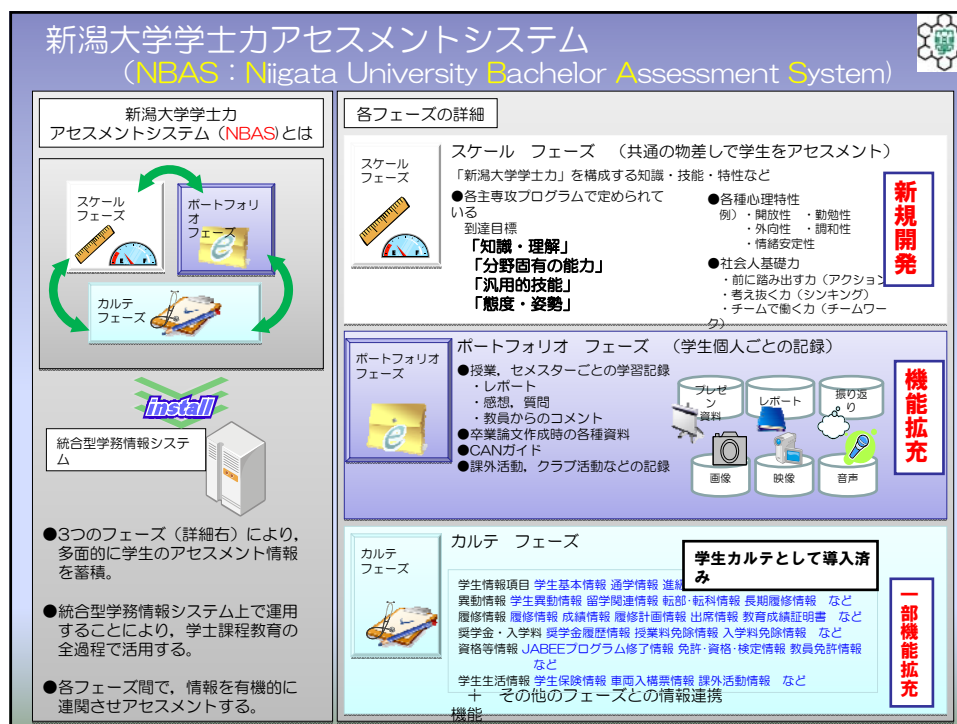
- ① プログラムの名称 ② 取得できる学位
- ③ プログラムの概要と人材育成のねらい
・人材育成のねらい／当該プログラムの優位性、特徴
- ④ 獲得が期待される学習成果および効果
〈到達目標(学習成果)の観点〉
1) 知識・理解 2) 当該分野固有の能力 3) 汎用的能力
観察および説明が可能な成果・証左を伴うよう具体的に記す
4) 獲得が期待される態度・姿勢
- ⑤ プログラムの履修要件
- ⑥ 到達目標に達するための学習方策・方法
カリキュラム立案と学習方法の基本方針
授業科目リスト
(カリキュラムマップで到達目標との関係を提示)
- ⑦ 修了認定の基準(基本的考え方、必要単位数)
- ⑧ 教育プログラムの評価と改善のための方策
- ⑨ 担当教員組織とFDポリシー

学生の学習成果の質保証を どのようにして実現するか？

- ① 視点 ・ プログラムの根拠の流動化
(質の基準が定まらない)
学問分野→人材像
- ・ プログラム履修学生の多様化
多様なキャリアパスを目指す学生
- 人材像(資質・能力)に確固たる外的基準があり得るか？



- ① プログラム設計上の人材育成目標の具体化
 - ② 個々の学生の目標と達成度の可視化
- による質保証の確立を目指す。(新潟大学型質保証)



NBASのスケールフェーズのイメージ

